U・Iターンフェア開催

サテライトキャンパスに19府県市

地方就職の情報提供

自治体の担当者が学生に支援情報を伝えた

各地方自治体と当地の優良企業の採用状況、就活支援制度などを紹介するU・Iターンフェアがサテライトキャンパスで、5日間（12月1、4、6、8、11日）開催された。昨年に続き2回目の開催で、今回は本学と就職支援協定を結ぶ19府県市のU・Iターン就職担当者らが参加。地元での就職や地方公務員を目指す学生が来場し、熱心に話を聞いた。

初日は茨城、群馬、栃木の3県がブースを設けた。

大竹寛人さん（商3）は地元・栃木県のブースで「Uターン就職を考えて情報収集していたところだったので、ちょうどいいタイミングだった」と説明を聞いた。自動車、航空、医療など製造業で活躍する企業が多いことを知り「自分が知らなかっただけで、素晴らしい企業が多いことがわかった。地元で就職するメリットやデメリットなど、さまざまな情報を伺うことができた」と話した。

茨城県のブースには、茨城県警察本部の担当者も参加。真剣に話を聞いていた山口真ノ介さん（経済3）は「地元で就職し、地域に貢献したいと考えていたが、警察官という選択肢は考えていなかった。民間企業を含め、もっと選択肢を広げて、自分に合う進路を探したい」と語った。

会場には他大学の学生の姿も見られ、専大の友人とともに参加した男子学生は「詳しい情報を聞くことができ、参加してよかった」と話した。

しごトーーク！カフェ

「先輩が体験を披露」

内定者トークライブ

就職課では多彩な支援プログラムを実施し、学生が幅広く情報に触れる機会を提供している。11月には先輩から話を聞く二つのプログラムが行われた。

社会で活躍する先輩たちから話を聞く「しごトーーク！ カフェ」。11月14日、神田キャンパスで、今年度の3回目が行われた。今回は、区役所の職員や国税専門官として働く卒業生3人が公務員の仕事内容や働き方、試験に向けた勉強法などを伝えた。

参加したのは法学部の学生18人。3グループに分かれて、「仕事の魅力は」「長期インターンシップの参加は必要か」など、熱心に質問した。先輩たちは、現在の仕事内容や働き方について詳しく答えた。

同じく神田キャンパスで11月20日、「就活内定者トークライブ」が行われた。就職アドバイザーを務める4年次生4人が、パネルディスカッション形式で体験談や失敗談を披露した。

4人は「就活を始めた時期」「エントリー企業数」「筆記試験、面接試験対策として取り組んだこと」などを紹介。高松将人さん（法）は「3月1日までにエントリーシートを完成させていたことで後の活動が楽になった」と、早めの準備をアドバイスした。小林遼さん（法）は「SPI試験は繰り返し問題を解くことが大切。筆記試験を通らないと人柄を見てもらうこともできない」、後藤秀太朗さん（法）は「面接対策は情報収集がカギ。私は前年の面接内容を就職課で調べ、問答を想定して臨んだ」と対策の重要性を語った。

▲　熱心に話を聞く学生たち（しごトーーク！　カフェ）
▼　体験談を披露した４年次生（就活内定者トークライブ）
＝いずれも神田キャンパス

U↓I ターン 知事メッセージ

福岡県知事　小川　洋

福岡県での活躍を通じて「地方創生」の弾みに

福岡県には、今年7月に世界文化遺産に登録された「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」をはじめ、多様な歴史・文化があり、古くから「アジアの玄関口」として発展してきました。

生活の面では、「暮らしやすさが自慢できる県」で2年連続第1位となるなど、県民自身が暮らしやすさを実感しています。物価が安く、平均家賃額は、県内で最も高い福岡市でも東京都区部の半分以下です。また、福岡・北九州都市圏の通勤・通学時間は、七大都市圏の中で最も短くなっています。

産業の面では、自動車生産額とロボット生産額が全国第2位となるなど、「ものづくり」が盛んです。就業者の割合では、卸売業・小売業が約2割で最も高く、製造業は約1割となっています。

本県では、2015年に策定した「福岡県人口ビジョン・地方総合戦略」の中で、県外進学者のUターンを中心とした若者人材の還流促進を重要な取り組みとして位置付けています。

この取り組みの一つとして、昨年11月に専修大学と「UIJターン就職支援協定」を締結しました。この協定に基づき、就職ガイダンスや保護者会へのアドバイザー派遣を行っているほか、11月に開催された「ふるさと就職マルシェ」、12月の「U・Iターンフェア」において、本県で働く魅力を発信したところです。このほか、「福岡県若者しごとサポートセンター」では、UIJターン希望者に対する電子メールによる相談も受け付けています。

来年2月21日には、東京・池袋サンシャインシティで、九州・山口8県が連携し、各県を代表する企業が一堂に会する「九州・山口しごとフェスタ」を開催しますので、ぜひご参加ください。専修大学の皆さんが、本県で就職し、ご活躍いただくことによって、「地方創生」に向けた弾みになることを大いに期待しています。

【福岡県若者しごとサポートセンター】http://www.ssc-f.net/index.html
【福岡県移住・定住ポータルサイト】http://ijuu-teijuu.pref.fukuoka.lg.jp/

就職課から

〈4年次生へ〉就職活動を継続して頑張っている皆さん、就職課を利用したことはありますか？経験豊富な職員だけでなく、専門的なアドバイスをするカウンセラーも常駐しており、皆さんをバックアップしています。

また、S-netでは大学に寄せられた求人情報や先輩たちの過去の就職活動記録など、豊富な情報が閲覧できます。ナビサイトばかりでなく、大学内の資源も有効活用してください。

〈3年次生へ〉年内に実施した就職支援プログラムでは、自己分析から面接対策まで基礎的なことを伝えましたが、ひと通りインプットできたでしょうか。ここからはアウトプットの勝負です。12月18日（月）に神田、1月16日（火）に生田で、グループディスカッション体感セミナーを開催します。講師からフィードバックをもらえる貴重な機会です。

また、SPI対策は自分が苦手な分野に集中して反復することで、効率良く力をつけられます。後期試験が終われば就活一直線。体調に留意して、悔いのない進路選択をしてください。

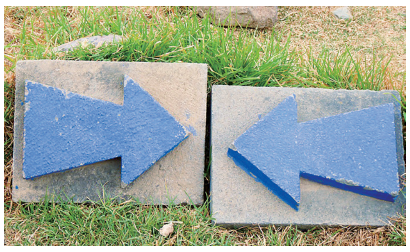
外国語のススメ　外国語教育研究室

― 61 ―

英語

上原　正博　法学部教授

クラッシュ



『クラッシュ』という邦題の映画があります。英語ではどのような表記になるのでしょうか。二つの可能性があって、crashとclashです。前者は「（一方的に）突っ込んで衝突する」の意味で、後者は「（移動する二つのものが）衝突する」の意味が含まれてきます。英和辞典ではどちらも「衝突する」などの訳になっており、違いがわかりにくいのですが、英英辞典では両者の違いが理解できるように説明がされています。実はcrushというのもあるのですが、これは缶を足でクシュッと潰すというイメージです。

原題はCrashです。ということは、この題に込められているものは、おそらく一方的な激突といったイメージでしょうか。映画が描くのは、さまざまな肌色をした人間たちが、外見が異なるという偏見から生じる相互の誤解によって、接触するごとに何らかの事件を起こしていく様子です。普通に生活していても、片側からの一方的な先入観によって、交通事故のように突然、人間関係の軋轢（あつれき）に巻き込まれていくのです。エンディングに向けて、物語はそれぞれの事件に巻き込まれた人間たちの間に和解が生まれていくことを暗示しています。この点、偏見を無くしていくという希望が描かれているようなのですが、筆者としては、納得のいかないところがあります。それは経済格差の隠蔽（いんぺい）です。

このコラムでは、語学や専門科目の担当教員が、外国語とのかかわりについて執筆しており、多様な言語観を知ることができます。ぜひホームページもご覧ください。（外国語教育研究室分室長）※短縮版。全文はＣＡＬＬ教室ホームページで